

熊本方言教材開発のための「ヨル」と「トル」の一考察 —若者の使用実態を中心に—

島本 智美

1. はじめに

熊本に住む日本語を母語としない日本語学習者のために熊本方言教材を開発するには、日ごろ何気なく使用している熊本方言の姿を明らかにし記述する必要がある。

本稿では熊本方言にみられる動詞のシヨル形式とシトル形式に焦点を絞り、西日本諸方言という大きな枠組みにおける二形式と比較することによって考察を行う。

共通語のシテイル形式が担う意味・職能を、西日本諸方言（京阪方言を除く）ではシヨル形式とシトル形式の二形式が分担しているため、この二形式に関する先行研究は、当然アスペクト論的観点からのアプローチが中心となっている。よって、本稿でもアスペクトを中心に考察を進める。

そして、最後にその考察を熊本方言教材開発にどのように反映したかを提示したい。

2. 本熊本方言のシヨル形式とシトル形式のアスペクト体系

熊本方言のシヨルは「シ+存在動詞オル」、シトルは「シテ+存在動詞オル」の音声的融合によるもので、「シヨル、シヨー、シヨッ」「シトル、シトー、シトッ」などのバリエーションがある。本動詞としての「存在動詞オル」の基本的な活用は表1のとおりである。

表1

	肯定	否定
非過去	オル	オラン
過去	オッタ	オランダッタ／オランカッタ ¹

アスペクトは<完成相><不完成相><パーフェクト相>の3項対立型で、有標のアスペクト形式であるシヨル形式とシトル形式を持つ「3項対立2型」のアスペクト体系をなしている。

表2 アスペクト・テンス体系 (P:極性 T:時制 A:アスペクト)

T \ P \ A	肯定			否定		
	完成	不完成	パーフェクト	完成	不完成	パーフェクト
非過去	飲ム	飲ミヨル	飲ンドル	飲マン	飲ミヨラン	飲ンドラン
過去	飲ンダ	飲ミヨッタ	飲ンドッタ	飲マンダッタ 飲マンカッタ	飲ミヨランダッタ 飲ミヨランカッタ	飲ントランダッタ 飲ントランカッタ

以上は文部省科学研究費（2001）「方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究」（研究者代表 工藤真由美 大阪大学大学院文学研究科）の p24p25 を参考にした。以下、この研究報告書

を（科研 2001）とする。

3. 共通語の「テイル」と西日本諸方言の「ヨルとトル」と熊本方言の「ヨルとトル」

西日本諸方言におけるシヨル形式とシトル形式の二形式使用は、アスペクト研究者の間では比較的関心の高い現象であると言われており、工藤（1995）もシヨル形式とシトル形式の「アスペクト対立が注目されてきた」と述べている。「注目されてきた」理由は、

- ①標準語においては、シテイルという1つの文法的＝形態論的形式で表現される<動作継続>と<結果継続>が、西日本の多くの方言では、異なる文法的＝形態論的形式で表現されること。
- ②さらには、このことと関係して、シヨル形式は、標準語のシテイル形式では、特別な条件がなければ十分に表現しえない「来よる、死による、終わりよる」のようなく変化過程の進行性>の意味を表すこと。
- ③シトル形式は、標準語のシテイル形式では、明示的に表現しにくい「猫が障子を破っとる」のようなく客体の結果継続性>や、「歩いとる、たたいとる」のようなく形跡の残存性>の意味を、特別な条件なしにごく普通に表すこと。

（p265）の3点による。

では、①～③で指摘された西日本諸方言のシヨル形式とシトル形式のアスペクト的特徴が、熊本方言のそれと一致するかどうか確認してみよう。

①<動作継続>と<結果継続>

共通語では<動作継続>を

（1）今、田中さんはご飯を食ベテイル。

<結果継続>を

（2）部屋の窓が開いテイル。

のように、どちらも同じテイル形式を用いて表現するが、熊本方言では

（3）今、田中さんはご飯を²食ベヨル。

（4）部屋の窓が開いトル。

のように<動作継続>を表現する場合はシヨル形式を、<結果継続>を表現する場合はシトル形式を使用する。

②<変化過程の進行性>

共通語で

（5）パーティーが終わっテイル。

と言えば、パーティーが終了し、後片付けをしていたり、だれもいなくなったパーティー会場を見たりしての発言となるだろう。一方、熊本方言で

（6）パーティーが終わりヨル。

のようにシヨル形式を使えば、司会者がパーティーを締めくくる挨拶をしている最中などであり、まだパーティーが終了していない<変化過程の進行性>を表している。同様に

（7）電車が来ヨル。

は、電車がこちらに近づきつつあるという意味であり、

(8) 魚が死にヨル。

は、魚が水面に浮かび上がり、口をパクパクさせ、間もなく力尽きるであろう様子を表現している。

③<客体の結果継続性>と<形跡の残存性>

つけておいたりビングのテレビが消えているのを見て、

(9) お母さんがテレビを消しトル。

のように、熊本方言ではシトル形式を使い<客体の結果継続性>を表現することができる。もし、「消す」を用いて共通語で(9)を表現したければ

(10) テレビが消してある。

とするしかなく、動作主である「お母さん」の入る余地はない。

また、猫の姿がなくても、残された猫の足跡を見て

(11) 猫が歩いトル。

とすることができ、シトル形式を用いることで、猫の動作による<形跡の残存性>が表せる。

一方、共通語で

(12) 猫が歩いテイル。

は、<動作の進行>を表すのが普通であろう。また、

(13) 猫の足跡が付いテイル。

とすれば、<結果>を表すことになる。

以上、共通語のシテイル形式と比較した場合、西日本諸方言のシヨル形式とシトル形式の aspekto 的特徴は、熊本方言のそれと一致している。

4. 西日本諸方言の「ヨルとトル」と熊本方言の「ヨルとトル」の比較

4-1 動詞の分類とアスペクトの文法的意味

工藤(1999)は動詞のタイプ分けを行い、シヨル形式とシトル形式のアスペクトの文法的意味を6つに分類し、以下のように「典型例を簡略化して」提示している。(p35p36)

動詞分類³

- (a) 主体変化動詞(限界動詞)：開く、死ぬ、落ちる、来る等
- (b) 主体動作客体変化動詞(限界動詞)：開ける、切る、落とす、作る等
- (c) 主体動作動詞(非限界動詞)：飲む、遊ぶ、歩く、降る等
- (d) 心理動詞：思う、怒る、心配する等
- (e) 可能・超過動詞：読める、泳げる、甘すぎる等
- (f) 存在動詞：おる(いる)、ある

アスペクトの文法的意味と典型例

- ①直前(動作開始直前、変化開始直前)

〔お父さんが冷蔵庫を覗いているのを見て〕

- ・「お父さん、ビール飲みヨル」＜動作開始直前＞

〔崖の上の石が落ちそうなのを見て〕

- ・「石が落ちヨル」＜変化開始直前＞

②過程（動作継続過程、変化継続過程）

〔お父さんがビールをごくごく飲んでいるのを見て〕

- (14) 「お父さんがビール飲みヨル／飲んドル」＜動作継続過程＞

〔お母さんがケーキを作っているのを見て〕

- (15) 「お母さんがケーキ作りヨル／作っトル」⁴＜動作継続過程＞

〔崖の上の石がごろごろ落ちているのを見て〕

- (16) 「石が落ちヨル／（落ちトル）」＜変化継続過程＞

③結果（主体の必然的結果、客体の必然的結果）

〔崖の下に石が落ちたのを見て〕

- ・「石が落ちトル」＜主体の必然的結果＞

〔テーブル上のケーキを見て〕

- ・「お母さんがケーキ作っトル」＜客体の必然的結果＞

④痕跡（偶然的結果）

〔ビール瓶が空になっているのを見て〕

- ・「お父さんがビール飲んドル」＜偶然的結果＝痕跡＞

〔台所にケーキを作った跡があるのを見て〕

- ・「お母さんがケーキ作っトル」＜偶然的結果＝痕跡＞

⑤経験記録（以前の動作変化の効力）

- ・「お父さんはご飯の時もうビール飲んドル」＜経験記録＞

- ・「あの子のお父さんは五年前に死んドル」＜経験記録＞

⑥反復習慣

- ・「お父さんは毎晩ビール飲みヨル／飲んドル」＜反復習慣＞

上記、アスペクトの文法的意味の③＜結果＞、④＜痕跡＞、⑤＜経験記録＞は、熊本方言でも全てシトル形式で表され、西日本諸方言と一致しているため省略し、①＜直前＞、②＜過程＞、⑥＜反復習慣＞に関して、熊本の現役大学生⁵の使用実態及び彼らの内省をもとに考察を試みたい。

4—2 直前

4—2—1 <動作開始直前>と<変化開始直前>

大学生の回答では、<動作開始直前>の意味での「お父さん、ビール飲みヨル」と、<変化開始直前>の意味での「石が落ちヨル」は使わないという結果が出た。

ただし、「またお父さん、ビール飲みヨル」は使う可能性があるかもしれないとの回答があった。この場合、アスペクトというより、父親が冷蔵庫を覗くのはビールが飲みたいときだけに決まっているという確信に近い話者の推量とも考えられる。上記の結果は、沖（科研 2001）による「ヨルの担う＜将然＞はムード用法であり、西日本方言では全般的にヨルの＜将然＞用法は失われつつある」（p75）という指摘に当てはまる。

4—2—2 「(よ)うカシヨル／(よ)うトシヨル」

＜直前＞の意味での「飲みヨル」、「落ちヨル」の代わりに「飲もうカシヨル／飲もうトシヨル」、「落ちようカシヨル／落ちようトシヨル」を使用するという回答がみられた⁶。

「飲もうカシヨル」の「(よ)うカシヨル」については興味深い報告がある。杉村（科研 2001）によれば、「1994年の方言研究ゼミナールの報告書で、福岡県八女郡の「30代以下の」若い人たちに用いられている「～うカシヨル」が」1998年調査の八女市では使われていないことが判明した。「大牟田市、山門郡瀬高町では「～カシヨル」がほとんどの直前（将然態）で使われる。「～カシヨル」は筑後の南部に広がっているようだ」（p127）とある。

確かに「(よ)うカシヨル」は福岡県を南下し、熊本県にまで広がっている。筆者は熊本県宇城市の24歳の女性の使用までを確認している。

一方、「(よ)うトシヨル」は老人層が使用する「(よ)うデチシヨル」「(よ)うデッシヨル」「(よ)うテシヨル」の流れをくむ形式であろう。若者にとっては「(よ)うカシヨル」に比べると古くさく、年配層が使うというイメージが強いようである。

杉村（科研 2001）は福岡方言の分析の中で「直前でのヨル系形式の使用も新しい傾向であり、ウチシヨル、ウトシヨル、ウゴトシヨル、ウデチシヨルなどのヨル系形式で直前と開始後の区別をおこなっていたところに、ヨル系形式が直前まであらかずようになって意味的競合（形式上の区別が無くなる）が起り始めていると言えよう」と述べている。（p129）

崎村（科研 2001）は「「直前相」の表現形式として古く～デチシヨル（・ゴトシヨル）系の言い方を持っていたのではないか。それが、」「若年層の話者では廃れて「動作継続」相の表現形式と区別無くなっているのではないか」とした上で、「工藤真由美氏の云うところを借りれば、一般的に見て、むしろそうした＜分析的表現＞は後発のものである可能性が高く、区別のしかたが単純である方が古態を留めているとの見方に分が有りそうだ、ということである」と述べている。（p120）

よって、＜直前＞を表す「(よ)うデチシヨル系」と「～シヨル」はどちらが古く、どちらが新しいのか現時点では不明である。

4—3 過程

4—3—1 過程＜動作継続過程＞（主体動作動詞（非限界動詞））

(14) のように西日本諸方言は＜動作継続過程＞を「飲みヨル／飲んどル」のどちらでも表すことができるが、熊本方言も同じであろうか。

「飲む」と同じ主体動作動詞の「食べる」と「降る」を選び、食事中にかかってきた電話に「今、ご飯を食べテイル」と答える場合と、降る雨を見て「今、雨が降っテイル」と描写する場合、シヨル形式とシトル形式のどちらで表現するか大学生に聞いたところ、表3のような結果となった。

表3

	ヨル	トル	併用
今、ご飯を食べテイル	5名	2名	4名
今、雨が降っテイル	2名	1名	8名

筆者を含む中高年層以上には<動作継続>の場合、シヨル形式しか使用しない⁷という者が多いが、大学生には二形式併用者が多く、シトル形式のみの使用者もみられる。このような使用実態は工藤(科研2001)が西日本諸方言の傾向として、「本来、シヨル形式は<動作継続>を、シトル形式は<結果継続>を表していた。しかし、このアスペクトの対立が徐々に失われ、シトル形式がシヨル形式に取って代わっているという」(p26)と述べているとおりである。

しかし、なぜ併用が起こるのが新たな疑問となる。「シトル形式がシヨル形式に取って代わる」過渡期の揺れにすぎないのか、それとも「食べヨル」と「食べトル」、「降りヨル」と「降っトル」の使い分けがあるのだろうか。

大学生にシヨル形式とシトル形式の使い分けをしているか内省してもらい、まとめてみた⁸。

○シヨル形式を使用した場合

- ・丁寧を感じる／語調が柔らかいと感じる
- ・丁寧な質問には「～ヨル?」「～ヨット?」を使うことが多い
- ・時間の幅を感じる
- ・現在進行という感じを強く受ける
- ・観察した事柄を話しているような感じ
- ・独り言を言うときに使う
- ・後ろに文末詞などが来る場合、「～ヨッタイ」「ヨットタイ」「ヨッバイ」のように「ヨル」を多く使う。

○シトル形式を使用した場合

- ・語調が強く感じる
- ・親しい友だちに使う
- ・事実のみを表すとき使う
- ・目の前の一瞬の状況を描写する
- ・だれかに物事を伝えるとき使う

最も多かったのがシヨル形式を使用したほうが丁寧だという回答である。次にシトル形式を使用すると語調が強く感じられるという回答が多かった。そのためか、シトル形式はくだけた会話に多用していると思うという回答があった。「トル」の語調が強く感じられるのは「ト」が破裂音であることも関係しているのではないだろうか。音に関連した回答に、「タイ」「トタイ」「バイ」などを続けようとするときは、「トル」よりも「ヨル」の「ル」の促音化した「ヨッ」が言いやすいため、無意識にシヨル形式が口から出ているというものもあった。音との関わりはさらなる調査が必要である。

また、シヨル形式の方が時間の幅や現在進行という感じを受けるとあるが、もともと進行相を表すのだから当然であろう。

これらの回答だけで判断することはできないが、シヨル形式は時間の幅を持って動きを捉えた表現で、シトル形式はあまり時間の幅を意識せず、客観的な描写として伝達する表現のように思われる。

4—3—2 過程<動作継続過程> (主体動作客体変化動詞(限界動詞))

(15) のように西日本諸方言は「作りヨル／作っトル」のどちらでも表すことができるが、熊本方言ではどうであろうか。

「作る」と同じ主体動作客体変化動詞の「切る」と「干す」を使った文例、

(17) お母さんがケーキ切っテイル。

(工藤 1998 p6の文例のヨル／トルをテイルに換え、「今」「台所で」を除いた)

(18) お母さんが洗濯物干しテイル。

(工藤 1998 p6の文例のヨルをテイルに換えた)

を大学生に示し、<動作継続>の意味の場合、シヨル形式とシトル形式のどちらで表現するか聞いてみた。その結果、(17) (18) のどちらも全員シヨル形式であった。

シトル形式を使用すれば<結果>あるいは<痕跡>の意味になる。しかし、(17) に「今」や「台所で」を補い、(18) に「今」や「外で」を補えばシトル形式でも違和感なく<動作継続>が表現できると6名が答えた。文脈の助け⁹があれば、シトル形式でも主体動作客体変化動詞が<動作継続過程>を表すことができるようである。

4—3—3 過程<変化継続過程> (主体変化動詞(限界動詞))

(6) (7) (8) で示したように、西日本諸方言では主体変化動詞のシヨル形式が<変化継続過程(変化過程の進行性)>を表すが、地域によってはシトル形式でも表せるようになってきたため、(16) ではシトル形式を括弧に入れ「石が落ちヨル／(落ちトル)」と提示されている。

それなら、始めからシトル形式が使用できるかどうかを聞いた方が早いと考え、

(19) 石が落ちトル。

(20) 魚が死んどル。

(21) 映画見に行っトル。

(工藤1998p6の文例をトルに変更)

(22) お母さんがこっちへ来トル。

の4例が<変化継続>を表すかどうか大学生に聞いてみた。全員がこの4例は<結果>を表しており、<変化継続>はシヨル形式でしか表せないと回答した¹⁰。よって、熊本方言における<変化継続過程>はシヨル形式一形式が担っていると言える。

4-4 反復習慣

次の4例がシヨル形式でもシトル形式でも<反復習慣>の意味を表わすかどうか聞いてみた。

- (23) お母さんは毎日お菓子食べヨル／食べトル。(主体動作動詞)
- (24) お母さんは毎日ケーキ作りヨル／作トル。(主体動作客体変化動詞)
- (25) 木の葉が毎日落ちヨル／落ちトル。(主体変化動詞)
- (26) 友だちが毎日映画見に行きヨル／行トル。(主体変化動詞)

結果は意外にも全員がシヨル形式でもシトル形式でも表せると回答した。シヨル形式のほうが自然だが、文中に「毎日」があればシトル形式でも<反復習慣>の意味だと分かるという答えがほとんどだった。

(25)の主体変化動詞「落ちる」については、10名が明確にシヨル形式とシトル形式の表す<反復習慣>の光景が異なると答えた。「木の葉が毎日落ちヨル」は通学路の木の葉がひらひら舞い落ちるのを見ながら歩いている光景で、「木の葉が毎日落ちトル」は通学路の落ち葉を見たり、踏んだりしながら歩いている光景であるとの答えであった。もともとシヨル形式が進行相を、シトル形式が結果相を表すのであるから、このような相違があるのも当然のことである。

4-5 熊本方言におけるアスペクト対立の型

工藤(1999)はシヨル形式とシトル形式の二つの形式を持つ方言のアスペクト対立の型を4つに分類している。(p38)

主体動作動詞は西日本諸方言全てにおいて、シヨル形式とシトル形式の対立がみられないため、主体動作動詞を省略した表を示す。

表4 アスペクト対立の型の分類

対立の型 動詞のタイプ	全面对立型		部分対立型	
	A	B	C	D
主体動詞客体変化動詞 <過程>	ヨル	ヨル (トル)	ヨル トル	ヨル トル
主体変化動詞 <過程>	ヨル	ヨル	ヨル	ヨル (トル)

大学生の使用実態は、「主体動作客体変化動詞の<動作継続過程>はシヨル形式で表すが、文脈の助けがあればシトル形式でも表せる。主体変化動詞の<変化継続過程>はシヨル形式のみで表す」であるから、若者の熊本方言におけるアスペクト対立の型は「全面对立型B」に当てはまる。工藤(1999)によれば熊本県宇城市松橋町はB、熊本県天草郡はCであるから松橋町と同じタイプとなる(p38)

4-6 まとめ

- ・熊本方言のシヨル形式は<直前>を表すことができない。しかし、「(よ)うカシヨル」「(よ)うトシヨル」を使って表すことができる。「(よ)うカシヨル」は福岡八女地方から南下してきた形

式とみられる。

- ・ <過程>は動詞のタイプで異なる。主体動作動詞は「シトル形式がシヨル形式に取って代わ」りつつあり、二形式併用者が多い。少数ではあるがシトル形式のみの使用者もみられる。主体動作客体変化動詞は、限られた文脈ではシヨル形式で表現するが、文脈の助けがあればシトル形式でも違和感なく表現できる。主体変化動詞はシヨル形式のみ表現可能である。
- ・ アスペクト対立の型は「全面对立型B」である。
- ・ <結果>、<痕跡>、<経験記録>は全てシトル形式で表される。
- ・ <反復習慣>はシヨル形式でもシトル形式でも表せるが、発話時の光景が同じとは限らない。

5. 熊本方言教材への応用

「日本語学習者のための熊本方言教材の開発」と考えたとき、これまでの考察を全て網羅するわけにはいかない。熊本方言のネイティブスピーカーから間違いだと指摘を受けない程度に留めた方がよいだろう。また、日本語学習者にとって既習であると思われる「～テイル」の意味・用法も考慮する必要がある。よって、シトル形式がシヨル形式の領域に入り込んでいることには触れず、以下のように簡潔で分かりやすい記述にした。

「～よる」と「～とる」は熊本だけでなく、西日本でよく使われる方言です。まず、「～よる」の使い方をみてみましょう。

[動作や作用の進行・継続]

- 1) A: 今、何ばしよると?
B: 何もしよらんけど。
- 2) 田中さんと話しよる人はだれ?
- 3) 朝からずっと雨の降りよるね。

このように「～よる」は動詞のます形に接続して、動作や作用の進行中・継続中を表します。

また、「～よる」は「～の途中だ」という意味も表します。

- 4) (ATMのシャッターが閉まりつつあるのを見て)
あっ、ATMの閉まりよる!
- 5) A: どこ行きよると?
B: 頭の痛かけん、うちに帰りよると。

[習慣]

習慣なども「～よる」を使って表すことができます。

- 6) キム: リー君はバイトばしよると?
リー: うん。1週間に3回中国語ば教えよる。
- 7) リー: キムさん、自炊しよると?
キム: うん、毎日、自分で作りよるよ。

	肯定	否定
非過去	～よる	～よらん
過去	～よった	～よらんだった

次に、「～とる」の使い方を見てみましょう。

「～とる」は動詞ので形に接続しますが、動詞ので形が「～て」の場合は「て形＋とる」、「～で」の場合は「て形＋どる」になります。

例) 持っとる・混んどる・死んどる・寝とる・覚えとる・しとる・来とる
[動作や作用の結果の状態]

8) A: わあ、桜の咲いとるね。

B: ほんとだ。きれいかね。

9) おとといから国の友だちが熊本に遊びに来とるけん、忙しか。

10) 田中さんは結婚しとるてです。

8)～10) のように動作や作用の結果の状態がそのまま続いていることを表します。

[経験や歴史的な事実]

経験や歴史的な事実なども「～とる」を使って表すことができます。

11) リーさんは国で修士号ば取っとる。

12) 阿蘇山は何回か噴火しとる。

[外見や性質]

外見や性質などを「～とる」で表すことがあります。

13) 田中さんはお姉さんによく似とる。

14) あの山道はくねくね曲がとる。

[まだ～ていない]

「まだ～とらん」の形で「まだ～ていない」という意味を表します。

15) A: 薬、飲んだ?

B: ううん。まだ飲んどらん。

	肯定	否定
非過去	～とる	～とらん
過去	～とった	～とらんだった

6. おわりに

今回の熊本方言の教材は主に留学生が使用すると考えられるため、留学生と同年代である大学生の使用実態と彼らの内省を頼りに考察を試みた。キャンパス以外の、例えばアルバイト先や地域の人々によって使用される熊本方言の考察や、アスペクト以外の観点からの考察も必要かと思われるが、別の機会に譲りたい。

注)

- 1) 否定形の「～ンカッタ」の使用は若い世代に多い。
- 2) 熊本方言では助詞「ヲ」は普通「バ」を使用するが、助詞は共通語のままにした。
- 3) 科研2001では主体変化動詞(限界動詞)を主体変化動詞(内的限界動詞)、主体動作客体変化動詞(限界動詞)を主体動作客体変化動詞、主体動作動詞(非限界動詞)を主体動作動詞(非内的限界動詞)としているが、ここではアスペクトの文法的意味の分類を工藤(1999)から採用したため、動詞の分類も(1999)のものを採った。(d)心理動詞(e)可能・超過動詞(f)存在動詞はアスペクトの文法的意味の分類(1)～(6)の典型例に使用されていないため扱っていない。
- 4) 工藤(1999)の例にはないが、主体動作客体変化動詞も考察の対象にするために加えた。
- 5) 19歳から22歳までの女子大生11名。(熊本市内5名、上益城郡3名、八代市1名、菊池郡2名)
- 6) <直前>の意味での「飲みヨル」、「落ちヨル」の代わりに何を使用するかという設問を設定していなかったため、人数の把握ができなかった。なお、1名のみ方言の非用がみられ、「飲むみたい」と「落ちそう」を使用するとの回答があった。
- 7) 筆者の内省では過去形であれば、シトル形式を使用することもある。
- 8) 参考のために大学生の内省を整理し記す。
 - ・食事中に電話がかかってきて「何をしているか」と聞かれたら、「ご飯食べヨル」と答えた方がやわらかい感じがする。「食べている途中だけど気にしないで」というニュアンスで使う。一方、親から「今日は自分で作って食べておいて」と言われた後、ちゃんと食べているかの確認の電話だったときや、相手に電話を切ってほしいときは「食ベトル」を使う。
 - ・「～ヨル」の方が「現在進行」という感じを強く受ける。
 - ・「雨が降りヨル」の方は一定の雨が継続して降っている感じがする。それに対して、「雨が降ットル」の方は、一時的な雨か、これから長引く雨かどうかは分からないが、「とりあえず一時的に目の前に降ってる雨」を見て話している感じがする。
また、雨が降る時間だけでなく、「雨が降りヨル」の方が、雨を見ている時間も長い気がする。
(例)「(窓に張りついて、空から地面に落ちる雨をじっくり見ながら)雨が降りヨルね～…」
対して「降ットル」の方は、「(パッと一瞬窓を見て)わっ、雨降ットルね」
 - ・「雨が降りヨル」は何となく「時間」の匂いがあるように感じる。
 - ・「雨が降っている」という事実のみを表すには「降ットル」の方が合っている気がする。
 - ・「降りヨル」は降り始めの感じがする。「降ットル」は雨が強い感じがする。
 - ・傘を持っていないときは「降りヨル」を使う方が多い気がする。
 - ・「降りヨル」は独り言で言う時に使い、「降ットル」は意外な時に使うと思う。
 - ・「雨が降っているか」の答えとして「降ットル」を使うことが多い。
 - ・「～ヨル?」「～ヨット?」など「ヨル」で質問した方が丁寧である。親しい友だちに質問するときは「～トル?」「～トット?」を使う。
 - ・後ろに「～タイ」「～トタイ」「～バイ」などが来る場合、「ヨル」を多く使う。
- 9) 先行研究ではアスペクトの観点からだけでなく、コンテキストの観点からの考察も行われている。丹羽(2005)は「ヨルの意味は目撃・経験であるという視点で見れば、他の方言でも同様なことが観察され、ヨルの主観性がはっきりしてくる」(p98)と述べている。二階堂(科研2001)は「大分のヨル形は五感(聴覚・視覚・嗅覚・味覚・触覚)で今まさに進行中の出来事を捉えることができる(本人が五感を通して確認できる)場合に使用が限定される」。(p162)また、二階堂(2006)は福岡の女子大生の談話を分析し、「目の前性というべき、いきい

きと事態を思い浮かべている時は、たとえ、過去の出来事でも、ヨルを採りやすくなる」「コンテキストの支えがあるからこそ、ヨルがとられることを積極的におしすすめると考えられる」(p153)と述べている。

工藤(2006)は「コンテキストの支えがあれば、どちらの形式を使用してもよいが、コンテキストの支えがなければ、<動作進行>はシヨル形式を使用することになる」(p154)と述べている。

10)例外として、「(自分ではない誰かが)映画を見に行く途中だ」と第三者に伝える場合は「行っトル」を使うことができるかもしれないという消極的な回答があった。

参考文献

- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房
- 工藤真由美(1998)「西日本諸方言のアスペクト体系の記述をめぐって」『日本語研究』
東京都立大学
- 工藤真由美(1999)「西日本諸方言と一般アスペクト論」『言語』Vol.27 大修館書店
- 工藤真由美ほか(2001)文部省科学研究費『方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究』(研究者代表 工藤真由美 大阪大学大学院文学研究科)
- 沖裕子(2001)「中近畿アスペクトについて」『方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究』
- 崎村弘文(2001)「デチシヨル・カチシヨル・トシヨル考」『方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究』
- 杉村孝夫(2001)「ヨル系形式とトル系形式の意味の対立と競合の動態—福岡県調査地点を対象として—」『方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究』
- 二階堂整(2001)「大分県のアスペクト」『方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究』
- 大西拓一郎(2002)「方言表現法の分布類型と分布形成」『国立国語研究所平成14年度公開研究発表会予稿集』
- 工藤真由美編(2004)『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系：標準語研究を超えて』
ひつじ書房
- 馬場良二(2005)「現代熊本方言話者の発話分析」『熊本県立大学文学部紀要』第11巻
- 丹羽一彌(2005)『日本語動詞述語の構造』笠間書院
- 工藤真由美(2006)「アスペクト体系の生成と進化」『方言の文法』岩波書店
- 二階堂整(2006)「談話資料からみた福岡方言のアスペクトの実態」『九州大学国語国文学会紀要』